TEACHING PORTFOLIO

August 16, 2023 (Created)
September 16, 2026 (Updated)

TAKUMI KOBATAKE

KWASSUI WOMEN'S UNIVERSITY

目次

はじめに p.1

1. 教育の理念 p.1

2. 教育の責任 p.2

3. 教育の方針と方法 p.3

4. 教育評価・学習成果および改善 p.6

5. 今後の目標 p.9

6. 本ティーチング・ポートフォリオのまとめ p.10

添付資料の一覧 p.11

はじめに

このティーチング・ポートフォリオは、私、小畑拓未のこれまでの教育活動を振り返り、自身の取組みを整理、省察することで、教育改善へとつなげること目的としている。今後も教育理念、目標の達成に向けて改善を繰り返し、それとともに本資料も更新し続けていく予定である。

Ⅰ. 教育の理念

理念① 学問や研究の楽しさを知ってもらい、生涯にわたって自分自身で成長することのできる人材を育成する

学生には、**環境×意匠の複合的視点から建築業界をリードし、人々がより快適・安心・安全かつウェルビーイングに暮らせる空間と、持続可能な地球環境の形成に貢献できる人材**へと成長してほしい。この目標を実現するためにはどのような教育が必要かを考えたときに、学生を長時間拘束する、大量の課題を課すといったことは現実的でない。私は、学生に、**学問や研究の楽しさを伝えることによって、生涯にわたって自分自身で勉強・探究し、成長し続けられる人材へと導くことが目標達成の近道**だと考える。大学生の時期においては、まずは学問・研究の楽しさを知ることが重要である。この経験をきっかけとして、今後の人生においても探究と自己成長を続けられる人へと成長してほしい。

理念② 環境×意匠の分野横断的知見を備えた設計者を育成する

建築には、意匠、環境・設備、構造等、様々な分野が存在するが、日本においては縦割りの意識が強く、私は**建築教育内部での分野横断が必要**だと強く感じている。学生には縦割り意識を持たず、幅広い視野を持った建築設計者になってほしいと考えており、私の専門分野である**環境工学と意匠の双方の知見を建築デザインに統合できる人材の育成を目指して教育を実践**している。また、私は環境工学の研究者として、熱・気流・光等のシミュレーションツールを活用しているが、このようなツールを活用する意匠分野の建築設計者はまだまだ少数である。学生には、**シミュレーションをはじめとする環境分野の技術を活用した建築デザイン提案を行い、地球環境の保全に貢献する設計者になって欲しい。**

理念③ 自分自身が手本となり背中を見せる

私自身、指導教員や会社員時代の上司の背中を見て、研究や仕事に取組む姿勢を学んできた。

学生時代の指導教員からは、学問・研究を楽しむということを教わった。建築の話を楽しそうに話し、データや計算結果を見て一喜一憂する姿を見ているうちに、私自身も学問・研究の楽しさを知り、アカデミックの世界に飛び込んだという背景がある。

会社員時代には、常に「期待を超える」仕事を意識するということを学んだ。資料作成一つにしてもどのような構成、文章、レイアウトで作成すればわかりやすく相手に伝わるか等を考え、全ての仕事で想定されるよりも質の高い仕事を実施するようにしてきた。

学生にも学問・研究を楽しみ、一つ一つの仕事を高い質でこなすようになって欲しい。そのため、私自身も日頃からこのことを強く意識し、質の高い教育を提供することで、**学生にとって手本となる存在になり、学生の人生に良い影響を与えたい**と考えている。

2. 教育の責任

2-1. 活水女子大学の教育目標

私が在籍している活水女子大学の大学全体の教育目標は以下の 5 つとなっている。

1. キリスト教の教えに基づく世界観・人生観の探究を目指す。
2. 自らの主体性を発揮し、他者と協働して、課題に取り組む姿勢を養う。
3. 生涯にわたって学び、地域社会・国際社会の発展に貢献できる人間を育てる。
4. 豊かな教養と高度な専門性を備える職業人・社会人を育てる。
5. 個人の尊厳を重んじ、平和で民主的な社会の担い手を育てる。

2-2. 学部および学科の教育目標

私が在籍する健康生活学部および生活デザイン学科の教育目標は以下の通りである。

健康生活学部

人々の健康的な生活と成長を支援する力と見識を持ち、社会と時代の要請に応えることができる実践的専門職業人の育成を目的とする。

生活デザイン学科

1. デザインの魅力を探り、人々の生活や社会・環境への配慮について学ぶ。
2. 審美性・機能性などの個別要因と、生産・流通・廃棄などの社会的サイクルについて学び、豊かで持続可能な生活を実現するための知識と実践的能力を育てる。
3. 様々な価値観と高度化・複雑化した生活の環境要素を理解し、自由で多様なライフスタイルを尊重したデザインを実現することのできる力を育てる。

2-3. 担当授業【添付資料①】

担当授業の一覧を表 1 に示す。現在(2026 年度)、前期・後期通じて 15 科目を担当している。担当科目の多くは建築系の科目であるが、環境問題全般を扱う「環境論」、プレゼンテーションおよびそれに関わるデザインを扱う「デザインプレゼンテーション」等も担当している。また、座学形式の授業だけでなく、「建築製図」等、演習系の科目も担当している。学科専門セミナーⅠ～Ⅳはいわゆるゼミである。ゼミでは、環境工学の知識や熱・気流・光等のシミュレーション技術を活用した建築設計・研究を指導している。

過去には、学部学科を超えたクラス編成で行う「キャリアデザインセミナー」も担当した。これは「住み続けられる長崎にするには」というテーマに対して、グループごとに課題解決の提案を行い、プレゼンテーションを実施する PBL 型授業である。また、2025 年度はシンガポールでの建築視察研修も担当した（生活デザイン研修）。

表 1　担当授業の一覧

	科目名	年度	専門/教養	対象年次	座学/演習
2026年度担当科目	建築環境工学	2022～	専門	1年	座学
	環境論	2022～	専門	1年	座学･演習
	建築製図	2022～	専門	1年	演習
	建築設備	2022～	専門	2年	座学
	建築製図CAD	2022～	専門	2年	演習
	デザインプレゼンテーション	2022～	専門	3年	演習
	デザインマネージメント	2022～	専門	3年	演習
	建築材料学	2022～	専門	3年	座学
	家庭電気・機械	2022～	専門	3年	座学
	建築生産	2022～	専門	3年	座学
	学科専門セミナーⅠ	2022～	専門	3年	演習
	学科専門セミナーⅡ	2022～	専門	3年	演習
	学科専門セミナーⅢ	2023～	専門	4年	演習
	学科専門セミナーⅣ	2023～	専門	4年	演習
	卒業研究	2023～	専門	4年	演習
過去に担当	学科特別講義	2022	専門	1年	座学･演習
	学科特別演習	2022	専門	1年	座学･演習
	キャリアデザインセミナー	2022	教養	1年	演習
	生活デザイン研修	2025	専門	1～4年	演習

2-4. 卒業研究に対する指導【添付資料②】

私が在籍する活水女子大学生活デザイン学科の卒業研究は、卒業設計か卒業論文、あるいは双方を選択する形式となっており、卒業設計・卒業論文の双方の指導を行っている。卒業設計では、熱・光・風のシミュレーション技術を活用する等、環境×意匠の分野横断型の設計提案を行い、シミュレーション・建築計画・製図・3D モデル作成・プレゼンシート作成・模型製作等、幅広く指導を行っている。卒業論文では、建築環境工学に関するテーマに取り組み、研究成果は毎年 3 月に開催される日本建築学会九州支部研究発表会にて学生自らが発表するようにしている。

2-5. 担任業務・学科長業務

2023 年度入学生（生活デザイン学科 30 名）の担任業務を行っている。業務内容は、学習・学生生活に関する学生との面談、相談対応、保護者対応、履修ガイダンスの実施等である。また、2026 年度からは学科長として学科運営に取り組んでいる。

3. 教育の方針と方法

前述した 3 つの理念を実現するために、以下の 5 つの方針で教育を実践している。方針①～③は理念①、方針④は理念②、方針⑤は理念③の実現を目的としている。

方針①　楽しく学び、学生の興味・関心を引き出す【理念①に対応】

学問・研究の楽しさを知ってもらい興味・関心を引き出すことで、大学卒業後も生涯にわたって自己成長できる人材を育成したい。これを実現すべく以下の取組みを実践している。

A)　『今日の 1 けんちく』【添付資料③、④】

「今日の 1 けんちく」と題して、全ての担当科目で毎回、建築を 1 作品紹介している。ここで紹介する建築は授業内容とは直接関係のないものをピックアップしており、その他以下の点に留意して紹介する作品を選択している。

- デザインが斬新で、学生が興味を示しやすそうなもの。
- 九州内等、学生が実際に見学に行きやすいもの。
- 旬なもの。例えば、サッカーW 杯の時期はその会場のスタジアム等。

B)　授業内容に関連する作品や研究結果を積極的に紹介【添付資料③】

「今日の 1 けんちく」とは別に、授業の本題の中でも積極的に建築物を紹介している。建築に関わる物理現象や技術、材料等を紹介するだけではなく、それを実際に活用した建築物や関連する研究結果の紹介まで行うようにしている。

C)　『質問・感想シート』の配布・回収・回答【添付資料⑤】

毎回の授業で「質問・感想シート」を配布し、授業終わりに回収、次回授業の冒頭で質問に回答している。授業内での疑問点の解消および共有、授業改善への活用を主目的としているが、学生の興味・関心を引き出すツールとしても機能している。例えば、「今度名古屋に旅行に行くのですが名古屋で見るべき建築物はありますか？」や「私は壁面緑化の建物が好きなのですが、おススメの壁面緑化建築はありますか？」といった直接授業内容とは関係のない質問が寄せられることも多く、これらの質問に対してもしっかりと回答し、学生の知識の幅、興味・関心を広げることを意識している。また、「好きな映画は何ですか？」等、建築とも関係のない質問も多く寄せられるが、楽しく授業を受けるための一要素となればと思い回答するようにしている。

方針②　徹底的にわかりやすく【理念①に対応】

学問の楽しさを知ってもらううえで障害となるのは、学生に”わからない”と思わせてしまうことである。そのため、徹底的にわかりやすく伝えるよう、以下の取組みを実践している。

A)　毎回授業で配布するオリジナル資料【添付資料③】

毎回の授業でオリジナル資料を配布している。前述のように授業においては、建築に関わる基礎知識の提供だけでなく、それを実際に活用した建築物や関連する研究結果の紹介まで行うようにしているが、市販の教科書は基礎知識の提供が主体となっている。また、直感的に理解することを目的として、図やイラストを多く自作しオリジナル資料に掲載することで、全ての学生が理解しやすいようにしている。

配布する資料は、全ての担当科目で次のような構成としている。

①質問・感想への回答 ➡ ②今日の 1 けんちく ➡ ③前回の復習 ➡ ④本題 ➡ ⑤記憶定着のための○×テスト(定期試験実施科目に限る)

本題に入る前に 1 週間前の授業内容の復習を行い、授業終わりにその日の授業内容の○×テストを実施することで、全学生が確実に授業内容を理解することを狙っている。

B)　特別に配布するオリジナルテキスト【添付資料⑥～⑫】

毎回授業での配布資料の他、各種ソフトウェアの使用方法等については別途テキストを作成し配布している。使用するソフトによってはそもそも教材が存在しなかったり、必要な情報だけをわかりやすく厳選して掲載した教材が少ないためである。これまでに以下の資料を作成・配布した。

- Adobe illustrator によるプレゼンシート作成テキスト
- Adobe Photoshop 練習帳
- Relux による昼光シミュレーション実践テキスト
- 気象データの設計への活用テキスト
- CFD 解析による風シミュレーションテキスト
- 日射シミュレーションテキスト
- 風配図作成テキスト

C)　オリジナルの試験対策用問題集の配布【添付資料⑬】

定期試験実施科目に関しては、全 15 回の授業の中間(8 回目)および最終回(15 回目)を目安に、オリジナル問題集を配布している。授業内容をただ記憶するだけでなく応用力をつけさせることを目的としている。建築士試験対策として資することも意識している。

D)　『質問・感想シート』の配布・回収・回答【添付資料⑤】

前述の「質問・感想シート」は、授業内での疑問点の解消および共有を主目的としている。直接質問に来ることが難しい学生でも気軽に質問できるように、この取組みを導入している。わからなかった部分をもう一度、更にわかりやすく丁寧に回答することで、疑問解消を全員で共有することを狙っている。

E)　オリジナル動画教材の作成【添付資料⑭】

演習系授業では、授業内で作業に遅れが生じる学生が出てきてしまう。そのため、動画教材を作成し、それをウェブ上にアップ、URL や QR コードを配信することで、授業時間外や自宅での作業を可能にしている。

方針③　自信をつけさせる【理念①に対応】

「私ってすごくない！？」といった具合に、学生に自信をつけさせることが、学問を楽しく感じさせ、興味・関心を持って積極的に学ぶことにつながる。そのため、以下の取組みを実践している。

A)　前向きになれるようなフィードバック

課題や作品には学生によって必ず優劣が生じるが、どの学生の課題・作品にも評価できるポイントが必ずある。そのため、課題や作品に対してコメントする際は、必ず評価できるポイントを述べた後に、改善すべきポイントを話すようにしている。

B)　試験点数の開示【添付資料⑮】

定期試験の結果は、ヒストグラムを作成し平均点等の情報や総評を添えて開示するようにしている。更に希望する学生には個別で点数を教えるようにしている。大学の定期試験の点数は開示されることは少ないと思うが、自分の努力の成果をわかるようにすることで自信をつけさせたい。

C)　少しだけ高めのハードルを課す

課題や授業の内容は、学生にとって少しだけ難易度が高いものとしている。それを乗り越えさせることで、学生に成長を実感させたり、達成感を感じさせるように意識している。前述のように、授業では徹底的にわかりやすく伝えることを意識しているが、決して授業のレベルを下げることはしない。

D)　科目別成績優秀賞の導入【添付資料⑯】

学生に自信をつけさせる、やる気にさせることを目的に、各担当科目ごとに表彰状を用意し、成績最優秀者を表彰している。

方針④　座学で得た知識をデザイン提案に活用するということを意識づける

【理念②に対応】

前述のように、環境×意匠の分野横断的知見を備えた設計者育成を教育理念としており、得た知識を活用する・デザイン実践するということを学生に意識づけるようにしている。

A)　環境×意匠の分野横断型のオリジナル設計演習プログラム・卒業設計【添付資料⑧～⑪】

従来の建築学科では、意匠系研究室の学生が設計を担当し、環境系研究室の学生は研究に専念するケースが圧倒的に多かった。こうした状況を踏まえ、私は環境に関する知識やツールを活用し、環境に配慮した建築デザインを提案できる設計者を育成するため、環境×意匠を統合した独自の建築設計演習プログラムを考案し、実践している。また、卒業設計においても環境工学的視点を含んだ提案を求め、学生とともに試行錯誤しながら設計プロセスを進めている。さらに、こうした学生の作品事例は、後輩にあたる下級生の授業でも積極的に紹介し、学びの循環を生み出している。

B)　環境工学教員によるデザイン教育実践【添付資料⑥⑦】

環境工学を専門とする教員でありながら、レイアウトデザインや Illustrator、Photoshop などの表現技法の教育にも力を入れている。自らが環境と意匠の両領域を横断し、知識を実践的に活用する姿勢を示すことで、学生に対して分野間の壁を越えて学ぶ重要性を体現するよう努めている。

C)　授業内容に関連する作品や研究結果を積極的に紹介【添付資料③】

前述の通り、建築に関わる物理現象や技術、材料等を紹介するだけではなく、それを実際に活用した建築物の紹介を多数行うようにしている。学生の興味・関心を引き出す他にも、知識をデザイン提案に活用するイメージをつけさせることを目的としている。

方針⑤　授業・資料はプレゼンテーションのお手本【理念③に対応】

学生には分かりやすく質の高いプレゼン、資料作成を求めるが、自分自身が手本を見せる必要がある。毎回の授業や配布資料はその手本を見せる場と捉えている。

A)　手本となる配布資料のレイアウトデザイン・授業内での話し方【添付資料③】

わかりやすく伝えるための発表の仕方、資料作成方法、レイアウトデザイン等を指導しているが、その内容を教員が実践できていないと説得力がなくなってしまう。そのため、全授業での配布資料は、学生に指導した内容を順守したものとするようにしている。また、話し方については、ハッキリと話し、声量やスピードに抑揚をつけるようにしている。これもプレゼンテーションにおいて学生にアドバイスしている内容と同じである。

B)　複数のオリジナル資料や動画教材の提供【添付資料⑥～⑭】

前述の複数のオリジナル資料や動画教材はそれぞれに目的があるが、教員側の努力や熱意を見せる、仕事に取組む姿勢を見せることも目的の一つである。

4. 教育評価･学習成果および改善

4-1. 授業評価アンケートの結果【添付資料⑰】

図 1 に授業評価アンケートの結果を示す。学生は、9 つの質問に対して 5 段階で評価を行い、「そう思う」を 5 点、「どちらかといえばそう思う」を 4 点、「どちらともいえない（普通）」を 3 点、「どちらかといえばそう思わない」を 2 点、「そう思わない」を 1 点として数値化される。

授業内容は常に更新し続けており、年々少しずつ難易度を高めている影響もあり、学期によって評価に多少のバラつきはある。しかしながら、これまでの授業評価アンケートでは常に大学全体平均を上回る評価を受けてきた。前述の様々な取組みの成果が出ているものと考える。特に、わかりやすさについては評価が高く、複数のオリジナル資料や質問・感想シートの取組みが評価されている。自由記述の欄では「楽しかった」という声も多く確認できることから、学問の楽しさを知ってもらうという教育理念が一部達成できていると考える。

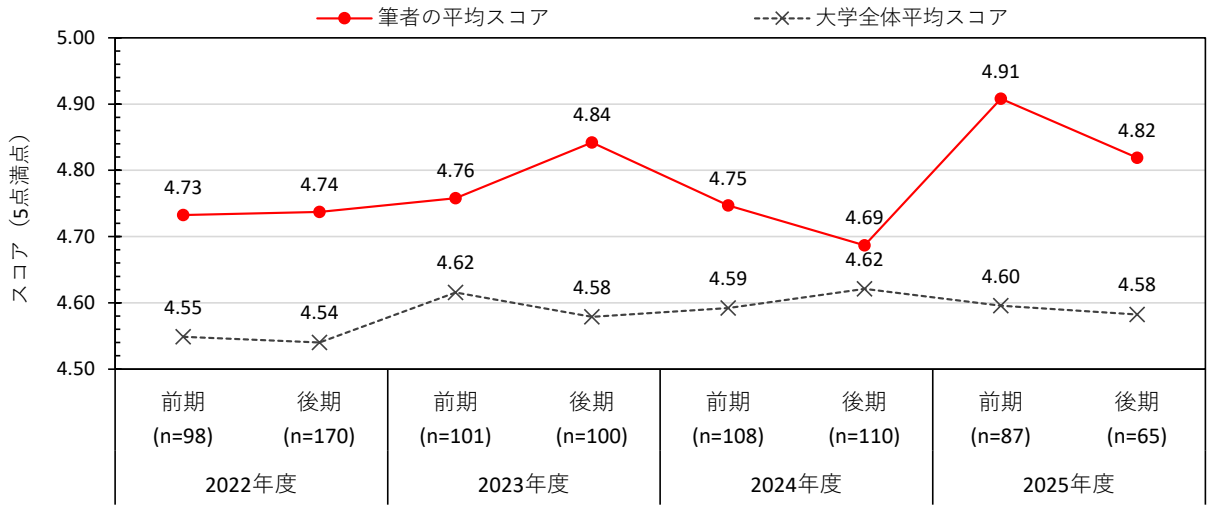

図 1　これまでの授業評価アンケートの結果（全授業・全質問の平均スコア）

4-2. グッドレクチャー賞の受賞【添付資料⑱】

活水女子大学では、学生からの授業評価がきわめて高い教員 1 名を各学期でグッドレクチャー賞として表彰しており、2022 年度後期のグッドレクチャー賞を受賞した。なお、一度受賞すると以降 3 年間は選考対象外となるが、受賞後も授業評価アンケートではむしろ高い評価を得た学期が多く、継続的に学生から高い支持を受けている。

4-3. 研究室所属学生の活躍【添付資料⑲⑳㉑】

環境×意匠の分野横断教育を進めてきた結果、学生の成果は年々大きく伸びている。設計コンペ「第 3 回学生のための環境デザイン設計競技（一般社団法人 建築設備綜合協会主催）」では本研究室所属の学生チームが優秀賞を受賞し、他大学大学院への進学者（活水女子大学生活デザイン学科に大学院はない）も 2 年連続で輩出するなど、学びを自ら深める姿勢が定着してきた。学会発表にも積極的に挑戦し、研究成果を外部へ発信する学生が増えている（活水女子大学生活デザイン学科ではこれまで学生が学会発表を行う文化はなかった）。さらに、環境工学的視点を取り入れた設計作品の質が向上し、日本建築学会「全国大学・高専卒業設計展示会」に 2 年連続で出展する学生を送り出すなど、着実に成果が現れている。これらの活躍は、分野の壁を越えて学ぶ教育が確実に学生の成長につながっていることを示している。

これまでの学生による学会発表実績

1） *滝川碧、 小畑拓未：沖縄に見られる花ブロックの日射遮へい性能把握および設計法の検討、第 64 回日本建築学会九州支部研究発表会、2025 年 3 月 2 日*

2） *小茂田美緒、 小畑拓未：住宅を対象とした庇の最適設計マニュアル作成に向けた研究 ―マニュアル作成手法の確立に向けた日射シミュレーションによる検討―、第 64 回日本建築学会九州支部研究発表会、2025 年 3 月 2 日*

3） *笹田智愛、 小畑拓未：長崎市中心部の平坦地における緑化建築物の調査、第 64 回日本建築学会九州支部研究発表会、2025 年 3 月 2 日*

4） *八木陽萌、 小畑拓未：沖縄に見られる花ブロックの日射遮へい性能把握および設計法の検討 ―開口部を設けた場合の花ブロック壁の日射遮へい性能―、第 65 回日本建築学会九州支部研究発表会、2026 年 3 月 8 日*

5） *瀬川葵、 小畑拓未：女子大学をフィールドとした環境行動促進のためのナッジ制作と効果検証、第 65 回日本建築学会九州支部研究発表会、2026 年 3 月 8 日*

日本建築学会「全国大学・高専卒業設計展示会」出展作品

1） *笹田智愛：草 www -和・笑・輪-、2024 年度*

2） *八木陽萌：快修(かいしゅう) -将来変化を見据えた戸建住宅の改修設計-、2025 年度*



図 2　コンペ授賞式後の様子



図 3　学生による学会発表の様子

4-4. 独自のアンケート実施や教育効果の検討【添付資料㉒】

意図した教育効果が得られているのかを詳細に確認したい場合は、大学の授業評価アンケートとは別に、独自アンケートを実施している。その他にも、レポート課題のテキストマイニング分析を通じて学生の理解度や思考の変化等を把握し、次年度の授業改善に活用している。大学共通の授業評価アンケートでは測れないような教育効果については、今後も独自アンケートで確認し、教育改善につなげていく所存である。

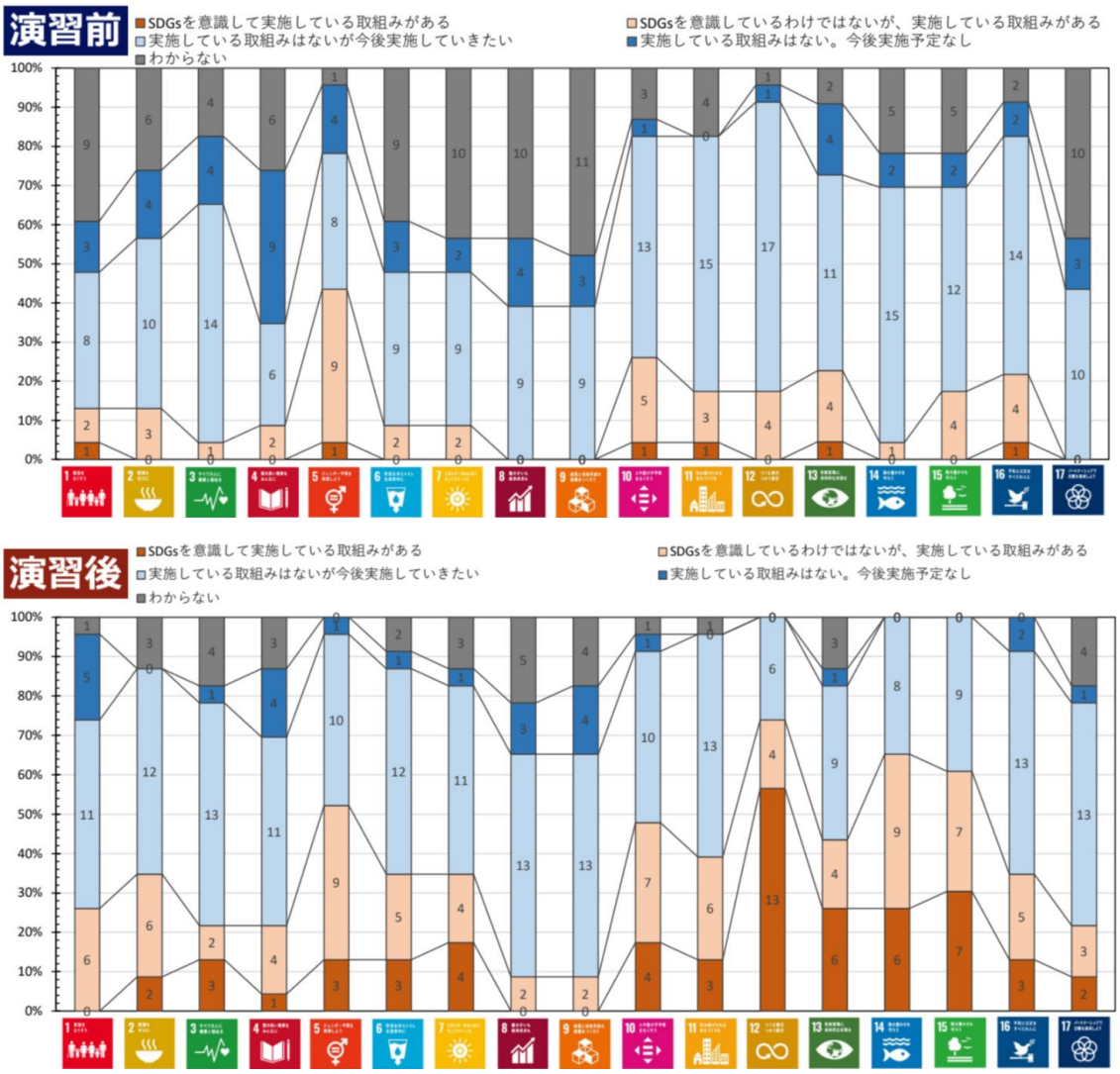

図 4　SDGs に関する演習の実施前後で、日常生活での取組み状況がどのように変化したかを確認した事例(2022 年度学科特別講義)

4-5.『質問・感想シート』【添付資料⑤】

質問・感想シートのコメントは授業改善にも活用している。全科目で毎回、学生からのコメントをもらっているので、学生がどの内容に興味・関心を持ったかを容易に知ることができる。そのため、学生の興味・関心が高いテーマに関しては、建築事例紹介を増やす等、更に内容を充実させるといった調整を毎年行っている。

5．今後の目標

5-1. 長期目標

私の教育活動における最大の目標は、以下のとおりである。

長期目標　環境×意匠の複合的視点から建築業界をリードし、人々がより快適・安心・安全かつウェルビーイングに暮らせる空間と、持続可能な地球環境の形成に貢献できる人材の育成

5-2. 中期・短期目標

上記の長期目標達成に向けて、まずは以下の中期・短期目標の達成を目指す。

目標①　教育活動の効果、成果を継続的に確認する

大学教員として 5 年目を迎えるにあたり、これまで一貫して、教育活動の効果を定期的に検証し、改善へとつなげることを重視して取り組んできた。環境や社会情勢の変化、さらには生成 AI の急速な発展により、求められる教育内容や方法は常に変化していく。そのため、授業評価アンケート、質問・感想シートの記述、独自に実施するアンケート、学生の作品やレポート内容などを丁寧に分析し、教育改善と実践、効果検証のサイクルを継続的に回し続けることで、教育の質を高めていく所存である。

目標②　自身の教育実践について積極的に発信する　【添付資料㉒】

教育の質をより高い段階へと高めていくためには、教育実践の内容を積極的に公表し、関係者間で議論を深めていくことが重要であると考える。その一助とすべく、これまでに教育実践に関する論文を多数執筆し学会や専門誌で発信してきた。今後も、教育実践の内容や改善の取り組みを継続的に公開し、外部との対話を通じて教育の質を向上させ、理念②「環境×意匠の分野横断的知見を備えた設計者を育成する」へとつなげていく。

これまでの教育実践に関する論文・学会発表実績（＊は査読有）

1） *小畑拓未：大学生を対象とした SDGs に関する認知度・関心度・取組み実施状況の把握および演習実施の効果について、日本建築学会九州支部研究発表会、2023 年 3 月*
2） *小畑拓未：大学における SDGs に関する演習の実施およびその効果について、2023 年度日本建築学会大会 学術講演会、2023 年 9 月*
3） *小畑拓未：大学における建築設計教育への環境シミュレーションの導入 その 1 昼光シミュレーション、活水論文集、66、pp.99-113、2023 年 3 月*
4） *小畑拓未：建築分野の大学教員が作成したティーチング・ポートフォリオおよび教育実践方法の紹介、活水論文集、67、pp.85-95、2024 年 3 月*
5） *＊小畑拓未：気象データと環境シミュレーションを活用した建築設計演習プログラムの考案と実践、工学教育、72(6)、pp.75-79、2024 年 11 月*
6） *＊小畑拓未：建築分野における環境シミュレーションの入門教育のための教材作成と実践、工学教育、73(2)、pp.101-106、2025 年 3 月*
7） *小畑拓未：環境×意匠のコラボレーション建築教育 その 1 環境シミュレーション入門教育のための教材作成と実践、日本工学教育協会第 73 回年次大会・工学教育研究講演会、2025 年 8 月*
8） *小畑拓未：環境×意匠のコラボレーション建築教育 その 2 気象データと環境シミュレーションを活用した建築設計プログラムの考案と実践、日本工学教育協会第 73 回年次大会・工学教育研究講演会、2025 年 8 月*
9） *＊小畑拓未：環境×意匠のコラボレーション建築教育による卒業設計、工学教育、73(5)、pp.172-177、2025 年 9 月*
10） *＊小畑拓未：表現力・プレゼンテーション力向上のための教育実践と学生の成長実感・満足度の調査、工学教育、73(6)、pp.46-51、2025 年 11 月*
11） *＊小畑拓未：シンガポールにおける建築視察研修の教育設計とその効果、工学教育、74(3)、pp.78-83、2026 年 5 月*

12）　＊小畑拓未：ウェルビーイングを導入した建築設計演習の実践とその効果、工学教育、74(3)、pp.84-89、2026 年5 月

13）　小畑拓未：ウェルビーイングを導入した建築設計演習、日本工学教育協会第 74 回年次大会・工学教育研究講演会、2026 年9 月

目標③　他大学における環境×意匠の建築教育実践の調査

全国の大学における建築系教育の動向、とりわけ環境×意匠の分野横断的教育実践について継続的に調査・研究を進める。授業内容、演習方法、評価手法、学生作品の傾向などを体系的に収集・分析し、国内における環境×意匠教育の全体像を把握する。さらに、優れた取り組みを自らの教育へ積極的に取り入れることで、教育内容の高度化と多様化を図るとともに、環境×意匠教育のモデル構築へとつなげていく。

目標④　学生の全国レベルでの活躍の継続的な創出と教育成果の可視化

設計コンペへの継続的な出展・受賞や学会での表彰を目指し、環境×意匠の視点を備えた学生作品および研究成果の質向上を図る。具体的には、シミュレーション技術の高度化、表現技法の強化、設計演習の体系化などを通じて、全国レベルで評価されるアウトプットを継続的に生み出す教育体制を整備する。また、学生の成果を学内外へ積極的に発信し、教育効果を可視化することで、学科全体の学習意欲向上と教育のブランド力強化につなげていく。

6．本ティーチング・ポートフォリオのまとめ

まとめを図 5 に示す。長期目標の実現を目指し、3 つの理念のもとに 5 の方針を立て、様々な取組みを実施してきた。現状、授業評価アンケートの結果や学生の活躍状況から、それらの取組みが有効に機能しているといえる。今後も、検証と改善を継続的に繰り返し、より高いレベルで長期目標の達成を目指していく。

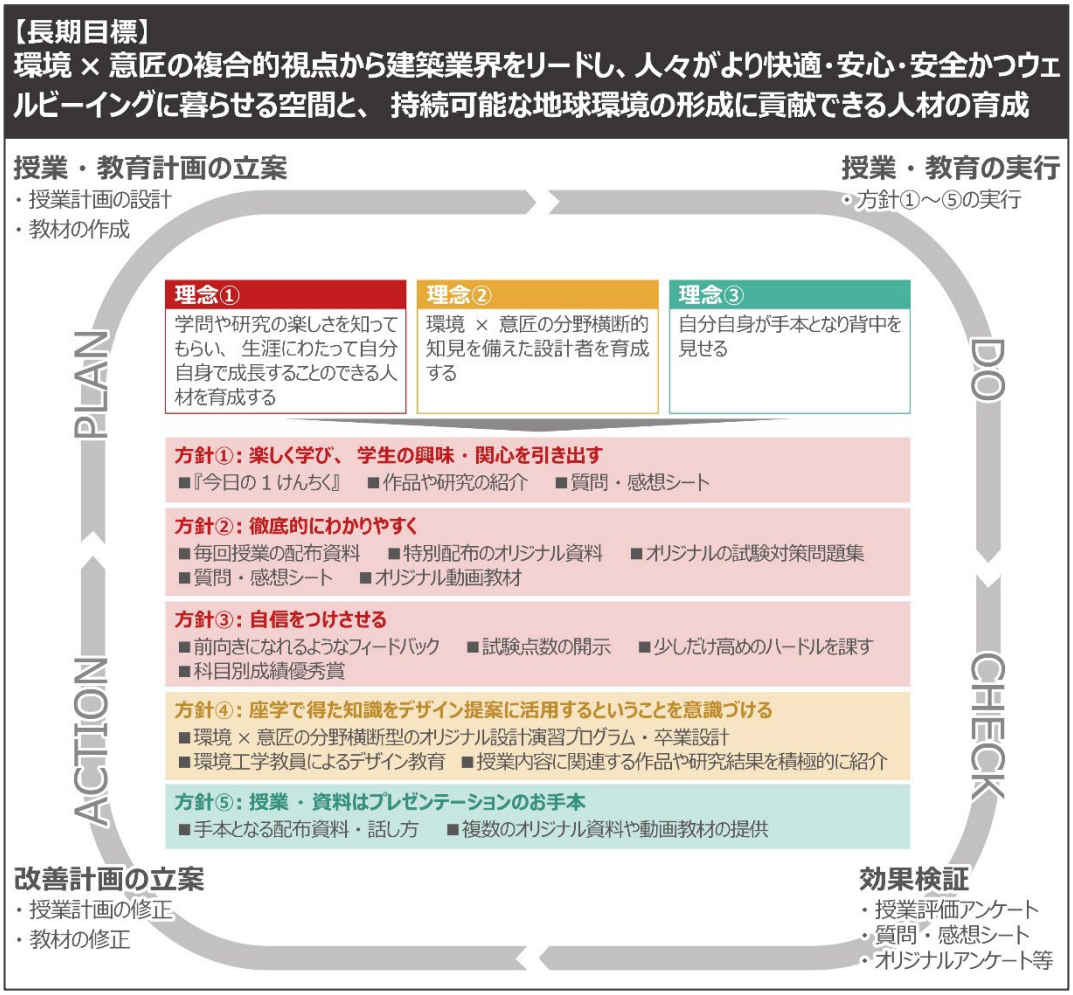

図 5　本ティーチング・ポートフォリオのまとめ

添付資料の一覧

添付資料①：担当科目のシラバス
添付資料②：学会発表の梗概（計 5 報）
添付資料③：毎回授業の配布資料（一例）
添付資料④：「今日の 1 けんちく」紹介建物リスト
添付資料⑤：「質問・感想シート」
添付資料⑥：【オリジナル教材】Adobe illustrator によるプレゼンシート作成テキスト
添付資料⑦：【オリジナル教材】Adobe Photoshop 練習帳
添付資料⑧：【オリジナル教材】Relux による昼光シミュレーション実践テキスト
添付資料⑨：【オリジナル教材】気象データの設計への活用テキスト
添付資料⑩：【オリジナル教材】CFD 解析による風シミュレーションテキスト
添付資料⑪：【オリジナル教材】日射シミュレーションテキスト
添付資料⑫：【オリジナル教材】風配図作成テキスト
添付資料⑬：オリジナル作成の試験対策用問題集
添付資料⑭：動画教材の QR コードリスト
添付資料⑮：定期試験結果の開示資料
添付資料⑯：科目別成績優秀賞の賞状
添付資料⑰：授業評価アンケートの結果
添付資料⑱：グッドレクチャー賞の賞状
添付資料⑲：第 3 回学生のための環境デザイン設計競技　優秀賞賞状
添付資料⑳：学生の学会発表の梗概 5 報
添付資料㉑：日本建築学会「全国大学・高専卒業設計展示会」出展作品　2 作品分
添付資料㉒：これまでの教育実践に関する論文・学会発表実績（計 13 報）